

Kバレエ×森山開次×磨 赤兒×尾上眞秀が踊る、もう一つの「遠野物語」「この世とあの世のあいだで、もう一度、君にあえたなら。」

A Dance Remembrance in Tokyo

Kバレエ・オペラ『踊る。遠野物語』

美しい時代へ——東急グループ



2025年12月26日(金)－28日(日)

東京建物 Brillia HALL(豊島区立芸術文化劇場) 演出・振付・構成 | 森山開次

●主催/企画・制作 | Bunkamura / K-BALLET

K-BALLET
op+o

In association with

pwc

Saya Okubo 大久保 沙耶

K-BALLET TOKYO ソリストー透明感あふれる優美な舞姿の持ち主。モナコ・プリンセス・グレース・アカデミーで育まれた技術と、オランダ国立バレエでの経験を持ち、古典からコンテンポラリーまで幅広く踊りこなす。本作では特攻隊員の許嫁役として、遠野の異界で様々な姿となって現れる女性像を演じ分ける。雪女の儚さ、オシラサマの健気さ、そして許嫁の純粋な愛—大久保の繊細な表現と気品ある佇まいがこれらの役を融合させ、「ただ会いたい」という想いに応える幻影として生と死を超えた愛の物語に余韻をもたらす。

Shoya Ishibashi 石橋 奨也

K-BALLET TOKYO プリンシパル—長身から放たれる伸びやかな踊りと深い表現力の実力派。青森県出身。『くるみ割り人形』でKバレエ初舞台。『海賊』『カルメン』など重要な役を務め、繊細な感情表現でプリンシパルに昇格。熊川哲也振付『死霊の恋』では内面からにじみ出る情感で観客を魅了。いぶし銀の魅力と静謐な佇まいが特徴の石橋が特攻隊員役に抜擢。「会いたい」という想いを胸に、遠野をさまよう青年の切ない旅路を身体の叫びで描き出す。森山の振付と石橋の表現が交わるとき、遠野の幻想世界が立ち上がる。

Akaji Maro 麿 赤兒

土方巽に師事し、唐十郎との出会いから状況劇場を経て1972年に大駱駝艦を創設。「天賦典式」という独自の様式で「BUTOH」を世界に轟かせた伝説の舞踏家。パリからニューヨークまで国際的な熱狂を巻き起こし、映画・舞台でも比類なき存在感を放つ。82歳という驚異の年齢で今なお第一線を走る麿が、Kバレエという異次元と交わる邂逅。遠野の山から現れる麿と大駱駝艦の精鋭たちの「異形の舞」は、特攻隊員の魂を揺さぶり、この世とあの世の境界が溶ける瞬間へと誘う。

1945年8月、青年の戦闘機が墮ちたのは「遠野」だった。

そこはこの世とあの世が交差する幻影の地か……

青年は愛しき許嫁の面影を追う。彼が最期に目にした彼女の姿とは。

こころを震わす切ない愛の物語

踊る。遠野物語

「会いたい、話したい、無性に。」

一通の特攻隊員の遺書との出会いからこの物語は始まった。

1945年、出撃を前に青年が許嫁に残した思い。私のことは忘れ、これから新しい人生を幸せに歩んでいてほしい。と切ない気持ちを抑えながらも許嫁の幸せを祈るものだった。けれどその末尾には、こらえきれない本音が綴られた。「会いたい、話したい、無性に。」

出撃。入道雲、蟬の音、ここは……。おれは、死んでいるのか。生きているのか。青年は神隠しにあった少年に導かれながら、この世とあの世が交わる幻影の地である「遠野」をさまよう。道中、オシラサマ、雪女、山姥に出会い、そのすべてに許嫁の面影を映しながら、かつて彼女と歩いた三陸の浜にたどり着く。月の光、静かに打ち寄せる波、近づく人影、青年がそこで見たものとは……。柳田國男生誕150年、戦後80年の節目におくる、もう一つの「遠野物語」。

Kaiji Moriyama 森山 開次

「刀」「空海」「宮沢賢治」から「遠野」へ—。NYタイムズ絶賛の『KATANA』、空海を思想を作品化した『曼荼羅の宇宙』、宮沢賢治『雨ニモマケズ』と、日本を独自の美学で表現してきた鬼才振付家の集大成『踊る。遠野物語』。ヴェネチア・ビエンナーレ招聘など世界で活動する森山が見出した異界への扉。本作では自らも異形の「河童」を踊る。遠野の原初的な畏れと神性を宿した姿は、特攻隊員の旅路に深層を与える。伝統と革新、現実と幻想の境界を溶かす森山の振付は唯一無二。「死者との対話」という普遍的テーマを圧倒的な美と力で描き出す。東京2020パラリンピック開会式演出・チーフ振付。

Maholo Onoe 尾上 眞秀

名門・尾上家の寺島しのぶとフランス人アートディレクターの父の血を引く12歳の逸材。七代目尾上菊五郎を祖父に持ち、2023年に初代尾上眞秀を名のり歌舞伎座で初舞台を飾る。TV・ドラマでも存在感を放ち、国立劇場特別賞を二度受賞。初出演映画「港のひかり」が11月に公開予定。類まれなる音楽性と身体感覚を持つ眞秀が、ダンス公演初挑戦で「神隠しにあった少年K」という物語の鍵を握る重要な役で登場。特攻隊員を異界へと導く繊細な所作は新たな可能性を示す。少年期という一瞬の時にしか表現できない「時分の花」は、今この時にしか見られない。



演出・振付・構成＝森山開次
企画＝高野泰樹 舞台美術・衣裳＝眞田岳彦 音楽監督・作曲＝尺八演奏＝中村明一
作曲＝吉田潔、アーヴィッド・オルソン 箏演奏＝磯貝真紀 歌＝菊池マセ
出演＝石橋聖也、大久保沙耶、他 K-BALLET TOKYO、唐・赤兒、尾上眞秀、田中陸奥子、森山開次
村松卓矢（大駱駝艦）、松田篤史（大駱駝艦）、小田直哉（大駱駝艦）、奥山はらば、水島晃太郎、小川莉伯

宣伝美術＝横尾忠則・森洋子
写真・渡邊肇 ヘアメイク＝渡辺多絵

東京公演 2025 | 東京建物 Brillia HALL
(豊島区立芸術文化劇場)
12月26日[金] 15:00開演
12月27日[土] 12:30開演 | 17:00開演
12月28日[日] 12:30開演 | 17:00開演

【公演に関するお問合せ】Bunkamura 03-3477-3244 (10:00～18:00)

東北ツアー開催決定！山形・秋田・青森・岩手（詳しくは特集HPをご覧ください）

Bunkamuraを支えるオフィシャルサプライヤー

OMRON | 鹿島 | KIRIN | 大和証券グループ | エニ | 東急グループ

料 金 プラチナシート* 15,000円 S席 12,000円 A席 8,000円 B席 5,500円 全席指定・税込
*特典付き／1階席：販売座席の最前1・2列目

先行販売 ▶オンラインチケット MY Bunkamura 6月14日[土] 10:00～ 一般発売 7月5日[土] 10:00～

チケット Bunkamura ▶オンラインチケット MY Bunkamura <https://mybun.jp/k-opto4> (座席選択可)

▶チケットセンター 03-3477-9999 (オペレーター対応 10:00～15:00)

▶チケットスペース ▶チケットスペースオンライン ▶としまチケットセンター
▶チケットぴあ ▶イープラス ▶ローソンチケット

主催／企画・制作：Bunkamura / K-BALLET 特別協賛：PwC Japanグループ
助成：文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術等総合支援事業（公演創造活動））／独立行政法人日本芸術文化振興会



文化庁
Agency for Cultural Affairs
Government of Japan



詳しくはこちら

Bunkamura
Challenge